

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600312		
法人名	有限会社ハタ介護ステーション		
事業所名	グループホーム我が家		
所在地	〒080-0053 北海道帯広市新町西6丁目5番5号 (電話) 0155-36-3604		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年5月12日

【情報提供票より】 (平成20年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 1月 23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 1人, 非常勤 6人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1ヶ月当たり		35,000 円	

(4) 利用者の概要 (8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.5 歳	最低 75 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長屋内科医院	フジ歯科医院
---------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は長く介護に携わり、利用者の話をゆっくりと聞きながらきめ細やかな介護のできる場所を目指してこの事業所を立ち上げた。笑いの絶えない家族のような人間関係と生活環境を保障するために、豊富な経験を活かし自ら率先しながら後進の指導にあたっている。職員もより良い介護を目指す意欲が高く、職員間の意思の疎通も良い。開設以来8年間職員の退職はほとんどなく、なじみの関係ができています。利用者の高齢化、重度化にも、必要な研修を行い対応している。利用者の家族には毎月3回は家庭訪問をし、利用者との関係性を築きあげている。地域住民からの認知症に関する介護相談なども受けている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	<p>前回評価での要改善事項については、具体化に向けて検討を行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価表は全員に配布して記入し、集計をもとに話し合い、意思を統一している。自己評価ばかりでなく、業務等の改善については日常的に話し合いを持ち、より良い介護を目指している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>市役所職員、町内会民生委員、利用者、利用者家族が出席し、運営推進会議を行っている。事業所からは取り組み状況、報告等を行い、出席者の質問に答えるなどするなかで、事業所のことをより理解してもらう機会となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>毎月3回は家庭訪問をし、利用者の日常の様子などを伝えながら希望、不安などを聞き取ったり相談に応じたりしている。重要事項説明書には外部の苦情相談窓口も載せ、知らせている。苦情、意見に対しては管理者が直接対応し、職員間での共有が必要な場合には話し合いをもっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>町内会に入会して行事案内をもらい、利用者の希望などによって参加している。地域の住民には、介護保険やグループホームの説明をしている。また、相談を受けることも知らせ、独居の方のヘルパー申請などの手伝いもしている。近隣の住民とは散歩等を通じて関わりを持ち、災害時等には互いに助け合うことを取り決めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を実践し、事業所利用者の権利についても「地域社会の一員として生活」することを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議、研修、毎日のミーティングのほか、日々話し合いながら理念の具体化が図れるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、行事にも参加している。運営推進会議での関わりのほか、地域での介護保険の説明や、認知症に関する介護の相談なども行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を配布し、記入している。結果を集計し話し合いをして、意志を統一している。自己評価時ばかりではなく、事業所内で起こる様々なことについて日常的に話し合い、日々改善を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会民生委員、利用者家族などのほか、利用者も参加して運営推進会議を行っている。様々な報告や説明などにより、事業所への理解が広がる機会となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険関係の問い合わせや情報交換をしたり、評価結果を毎回届けたりするなど、必要に応じて連絡を取り、働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に3回は家庭訪問をし、家族に利用者の日常の様子、金銭出納などを知らせている。6年間職員の退職はないが、ある場合には、把握した時点で家族と利用者には知らせている。また、状態変化時等には電話などでも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口を明らかにしている。運営推進会議にも、家族が参加している。主には、家庭訪問時に直接意見等を聞いている。職員の共通理解が必要なことについては、話し合い、迅速に対応している。重要事項説明書には外部の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットの事業所のため、異動はない。離職も6年間なく、利用者とのなじみの関係ができています。離職がある場合には、把握した時点で利用者にも伝えている。職員間の連携が密にできていて、離職があった場合にも意思の疎通をはかりながら、職員が代わる場合のダメージの予防に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験豊富な管理者のもとで、働きながらの研修を行っている。外部で行われた研修は、参加職員による伝達研修を行うようにしている。	○	事業所では、外部研修を有効に行えるよう、さらなる検討を行っているので、今後の取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流する機会を持ち、情報交換等を行っているが、職員交流は行っていない。	○	事業所では、職員の交流も行うよう検討していることから、今後の取り組みに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受け、家庭訪問を何度でも行い、話を聞き、説明もしている。その後、見学の機会も設けるなど、馴染んでもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	笑いの絶えない家族のような関係の中で、押しつけ、無理強いなどはしないように心がけている。自分の洗濯物たたみなどを日常的に行ったり、ことわざや暦の意味、季節の行事に関することなどを教えてもらったりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなこと、嫌いなこと、昔は行っても今は好まないこと、言われると嫌なことなどそれぞれの希望や好みに配慮しながら、日々の楽しみごとなどを探し、喜んでもらえるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一回はカンファレンスで検討し、必要なことを加えている。家庭訪問を行って家族にプランの説明をし、同意をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常的に起こる利用者の変化を見逃さず、記録している。共有すべき内容については、その都度互いに伝達し、ミーティングで話し合い、家族にも連絡をするなどして、必要な場合には新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の高齢者世帯の家庭訪問、介護保険やグループホームの説明、地域の民生委員や高齢者からの相談、認知症の方への対応の仕方などの相談も受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの利用者が、利用開始前からのかかりつけ医を受診している。通院にも基本的には職員が全て対応し、かかりつけ医との関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、主治医、事業所側が協議を行いながら、希望に応じて、終末期にも可能な限り事業所で過ごせるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と共に歩むことを基本とし、個々に応じて表情などにも注意を払い、目線を合わせて話すようにしている。記録の保管場所等は決められていて、個々の個人情報を事業所外に提出する場合には、同意を得ることとしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、したいこと、したくないこと、食事の時間などの希望に沿えるようにしている。希望だけではなく、体調との関係などについても見極めるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	芋やトウキビ、フキなどの皮むき、下膳、茶碗拭きなど、できることを活かしながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が楽しいものになるよう、会話を大切にし、入浴剤も入れている。入浴を好まない利用者にも、無理強いせず、声のかけ方を工夫するなどして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何をするときにも無理強いせず、利用者が自主的に行えるようにしている。毎日同じ時間帯になると、洗濯物たたみやカラオケをするために、利用者が集まってきている。茶碗拭きなどの役割ごとや、風船バレーなどで体を動かすことなども楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所脇を流れる川の堤防や、近所の犬のところまでの散歩、買い物、ドライブ、日なたぼっこ、草取りなどの時に事業所の周りや外出先でアイスクリームを食べるなど、外出を楽しめるきっかけ作りをしながら、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤の職員が一人になる時間以外には、施錠はしていない。外出時には職員が共に歩き、利用者に興奮した様子が見られる時などは、場面転換をして落ち着けるよう支援しながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間および昼間を想定して避難訓練を行っている。職員全員に災害時のマニュアルを配布し、ミーティングや研修時に勉強をしている。災害時等必要などときには、近所の住民と、互いに協力して避難をすることなどを取り決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の会話の中から利用者の好みを採り入れながら、栄養士が献立を立てている。食事量が少なくなっているなど、必要な場合は食事量、水分量の記録を取っている。また、刻み食などにも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や鉢植えなどのほか、雛飾り、鯉のぼり、クリスマスツリーなど季節感も取り入れている。テレビは、相撲や時代劇などのほかはつけていないが、談笑や役割ごと、楽しみとなることを工夫し、利用者は多くの時間を居間で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面所を作り付け、テレビを置いているほか、それぞれの家族の写真やアルバム、仏壇、使い慣れた家具、表彰状、鉢植えなどが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。